

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2014.12.1

No.430



平成 26 年冬のボーナス調査

レポートの概要

平成 26 年冬のボーナス受給見込額は、平均で 36 万 9 千円となり、昨年冬の受給実績に比べ 6 千円上回った。一方、ボーナス希望額は平均で 50 万 3 千円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は「良くなる」とする割合が増加、「悪くなる」が減少したことから期待指数は 5.8 ポイント上昇した。

ボーナスの使途計画は、「消費」が 39.7%、「貯蓄」が 45.7%、「返済」が 14.6%の割合となり、昨年冬に比べ「消費、返済」が低下、「貯蓄」が上昇した。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「老後の備え」、「教育」と続いた。

最近の暮らし向き調査では、暮らし向き指数が 26 年夏に比べて 2.7 ポイント低下した。「良くなった」とする割合が 0.6 ポイント増加したものの、「悪くなった」とする割合は 6.1 ポイント増加し、暮らし向きの厳しさが幾分広がりつつある状況がうかがわれる。

県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約 3 万 3,900 円、ボーナス時は約 5 万 3,300 円となった。最も小遣いが多かったのは毎月、ボーナス時とも 20 代男性であった。

この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の 30.4%となった。「予定あり」の割合は、20 代が 1 割未満であったが、年代が進むにつれて割合が大幅に増加し、50 代では 61.2%となった。「予定あり」とした回答者の平均贈答先数は 4.7 先、1 先当たりの平均金額は 4,452 円、御歳暮予算合計額は約 2 万 15 円となり、昨年調査に比べて贈答先数、予算額が増加、平均金額はほぼ横ばいであった。

1. 平成26年冬のボーナス調査

(1) ボーナス支給見込額

平均36万9千円、昨年冬を6千円上回る

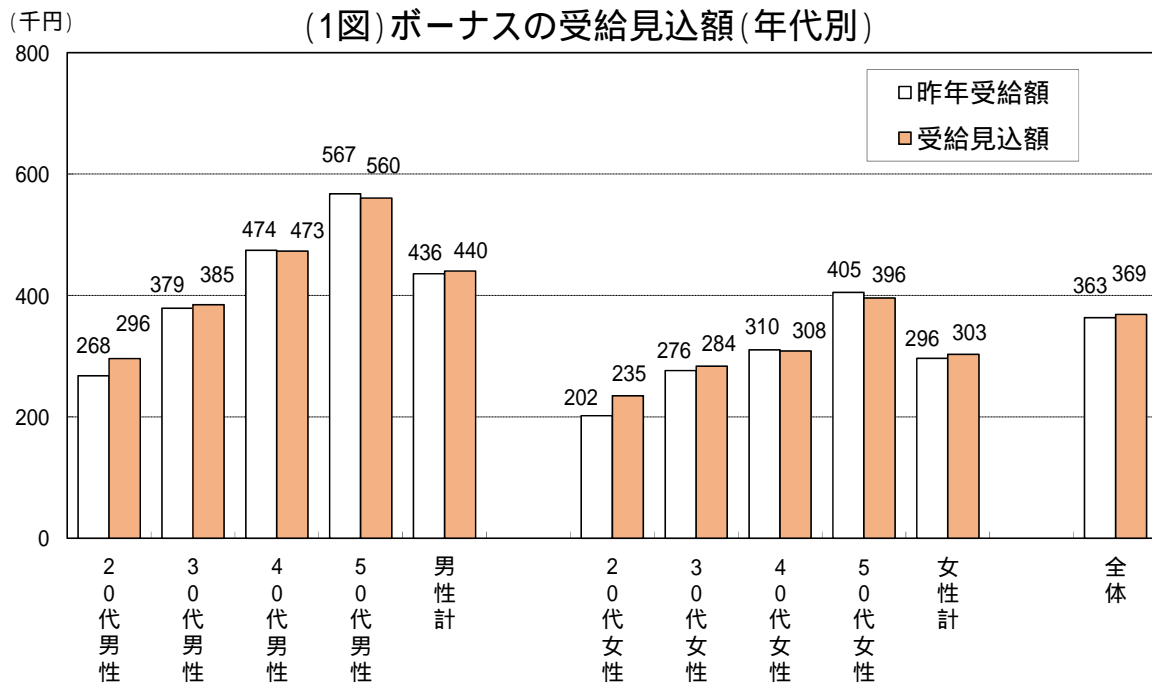
県内給与所得者が予想する今冬のボーナス支給見込額は、平均で36万9千円となり、回答者の昨年冬の支給実績(平均36万3千円)に比べ6千円上回った。これを年代別・男女別にみると、最も見込額が大きかったのは50代(50代以上を含む、以下同じ)男性の56万円、次いで40代男性の47万3千円、50代女性の39万6千円、30代男性の38万5千円などの順となった。また、20代(20代以下を含む、以下同じ)男性・女性、30代女性は30万円を下回った。

男女別の平均見込額を比較すると、男性が44万円、女性は30万3千円となり、男

性が女性を13万7千円上回った。また、各年代とも男性が女性を上回っている。

年代別に今冬の見込額と昨年冬の支給実績額との開きをみると、40代以上は男女とも昨年冬の支給額を下回った。差額は50代女性が9千円、50代男性が7千円、40代女性が2千円、40代男性が1千円となった。一方、30代以下は男女とも昨年冬の支給額を上回っており、30代男性が6千円、30代女性が8千円となったほか、20代男性は2万8千円、20代女性は3万3千円と大幅な増加が見込まれている。

(以上、1図参照)



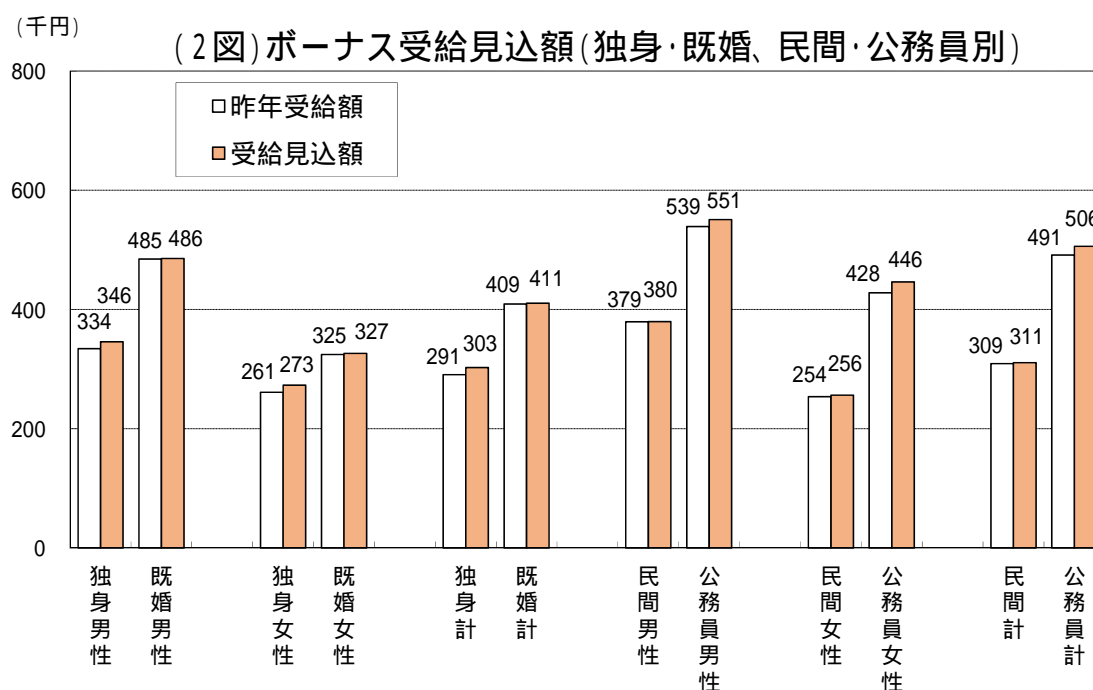
受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が30万3千円、既婚者が41万1千円となった。昨年冬の受給実績に比べ独身者が1万2千円、既婚者は2千円それぞれ上回る見込みである。

また、民間・公務員別では、民間が31万1千円、公務員が50万6千円となった。昨年冬の受給実績額に比べ民間が2千円、公務員は1万5千円それぞれ上回る見込みである。男性は民間が1千円、公務員は

1万2千円それぞれ上回り、女性は民間が2千円、公務員は1万8千円それぞれ上回る見込みである。

今冬のボーナス受給見込み額は全体的に昨年冬の受給実績額を上回る結果となった。20代では大幅な伸びがみられた。一方、40代以上は昨年冬の実績を下回ったものの、それぞれ1万円未満と比較的小幅な減少にとどまった。

(以上、2図参照)



(2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額は平均50万3千円

今冬のボーナス希望額は平均で50万3千円となり、平均受給見込額36万9千円との間に13万4千円の乖離を生じた。男女別の平均希望額を比較すると、男性が60万1千円、女性は41万2千円となり、男性が女性より18万9千円多かった。

年代別・男女別の平均希望額をみると、50代男性が73万9千円でトップとなり、以下、40代男性の65万1千円、30代男性

の53万5千円、50代女性の53万3千円などと続いた。

受給見込額と希望額との乖離幅を年代別にみると、50代男性が17万9千円で最も大きく、次いで40代男性の17万8千円、30代男性の15万円、50代女性の13万7千円などと続いた。乖離幅が最も小さかったのは20代女性の9万4千円であった。各年代とも男性の乖離幅が女性に比べ大

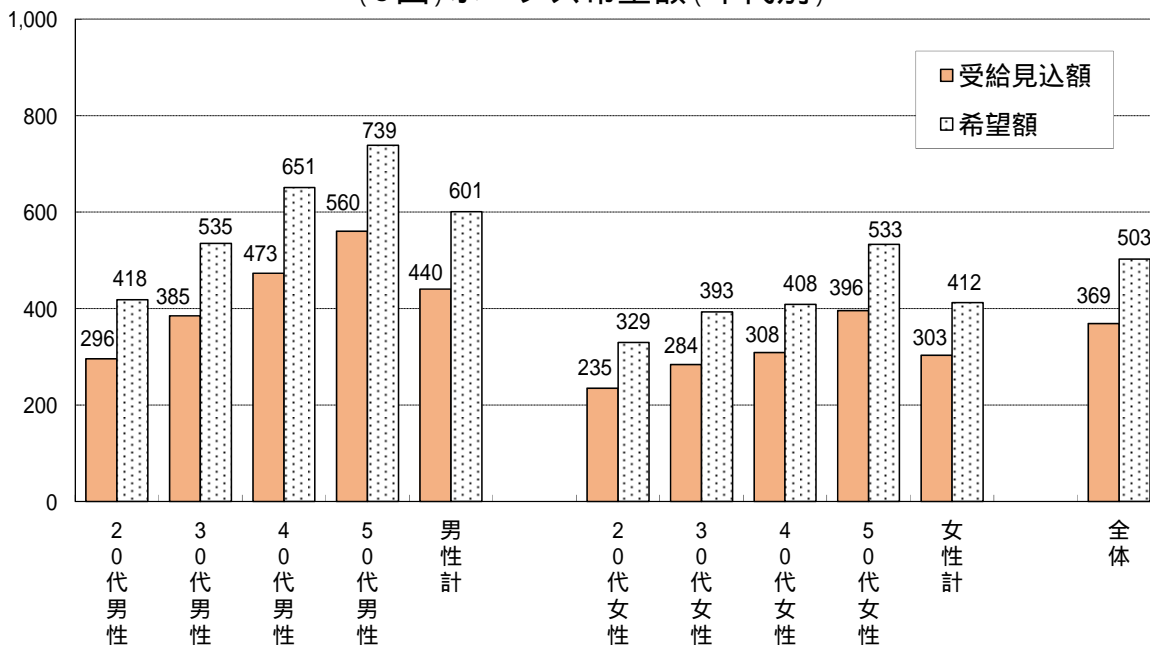
きかった。なお、独身・既婚別にみると、既婚者の乖離幅が独身者に比べ大きかった。民間・公務員別でみると、民間の乖離幅が

公務員に比べ大きかった。

(以上、3、4 図参照)

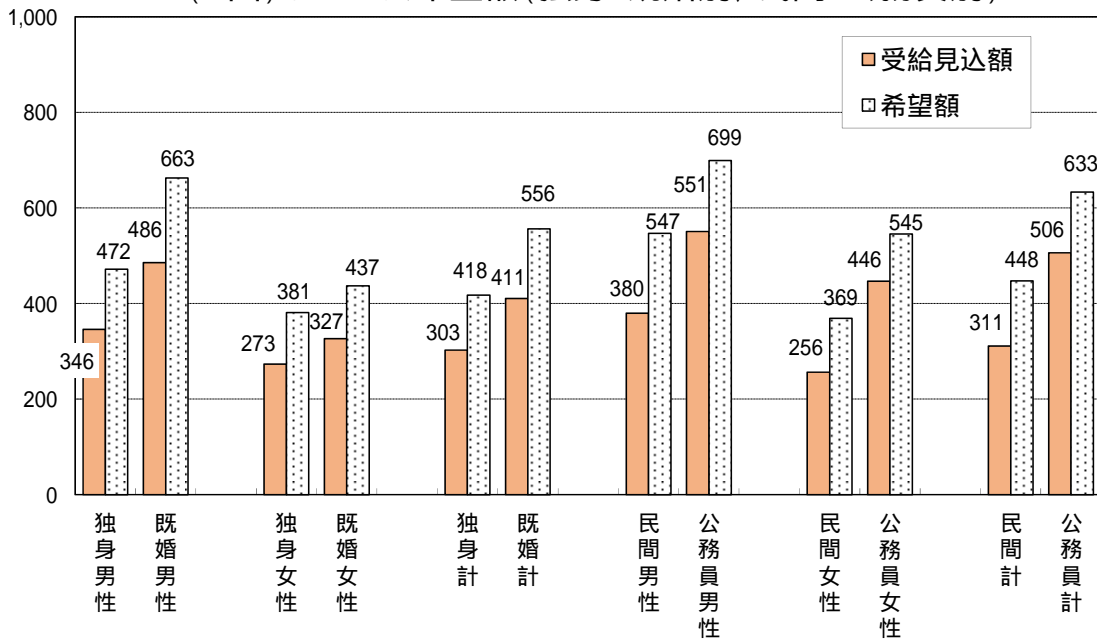
(千円)

(3 図) ボーナス希望額(年代別)



(千円)

(4 図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて

期待指数 5.8 ポイント上昇、公務員の大幅改善が影響

今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は、24年冬に比べ5.6ポイント増加の16.7%、一方、「悪くなる」は同5.9ポイント減少の16.0%となり、「変わらない」は同0.3ポイント増加の67.3%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は50.4となり、昨年冬に比べて5.8ポイント上昇した。

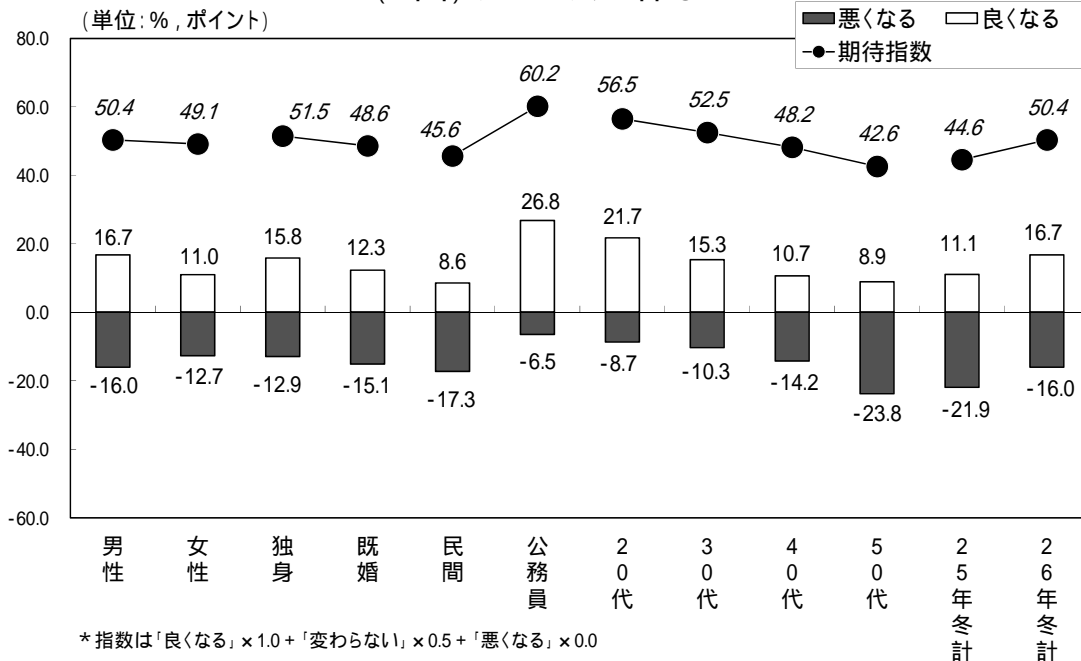
年代・属性別にみると期待指数は、民間、

50代がやや低めだったものの、公務員が60.2となったほか、男性、独身、20代、30代で50.0を超えた。昨年冬は全ての属性が50.0未満であり、今回調査では全体的に改善傾向がみられた。

今冬のボーナスの伸びについては、「良くなる」の割合が「悪くなる」を上回ったが、これは昨年冬に比べ公務員の大幅な改善(良くなる:4.9% 26.8%、悪くなる:44.4% 6.5%、期待指数:30.2 60.2)が大きく影響している。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナスの伸び



(4) ボーナスの使途計画

消費割合が低下、貯蓄割合は上昇

今冬のボーナスの使途計画は、「消費」が39.7%、「貯蓄」が45.7%、「返済」が14.6%の割合となった。昨年冬と比べると、

「消費」割合が2.0ポイント低下、「貯蓄」割合が2.4ポイント上昇、「返済」割合が0.4ポイント低下となり、「消費」の低下が「貯蓄」

の上昇にシフトしている状況がうかがわれる。

属性別にみると、男女別では、男性は「返済」割合、女性は「消費」、「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は

「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割合が高く、「消費」割合はほぼ同じであった。民間・公務員別では、民間は「消費」、「貯蓄」割合が高く、公務員は「返済」割合が高かった。

(以上、1表参照)

(1表) ボーナスの使途計画

(単位: %)

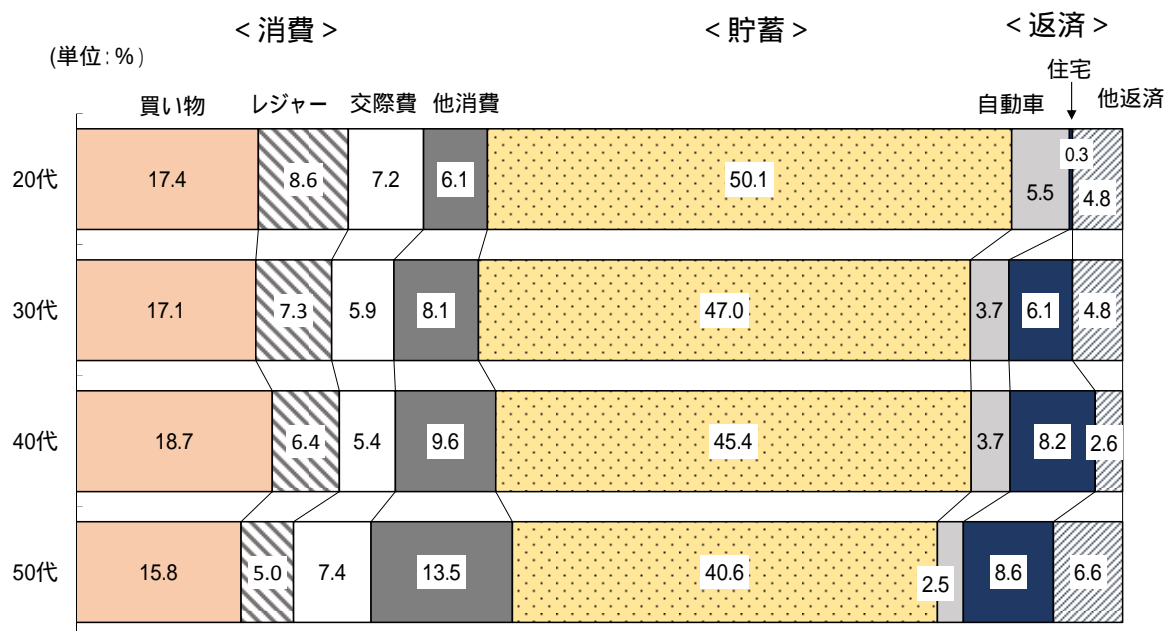
	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	38.6	16.7	6.2	6.4	9.3	42.6	18.8	4.5	9.1	5.2
女性	40.9	17.9	7.2	6.2	9.6	48.5	10.6	3.0	3.5	4.1
独身者	39.6	17.7	7.6	7.2	7.1	49.1	11.3	4.4	1.7	5.2
既婚者	39.9	17.1	6.2	5.7	10.9	43.5	16.6	3.3	9.1	4.2
民間	40.6	17.9	6.6	6.7	9.4	46.8	12.6	3.3	4.8	4.5
公務員	37.8	16.2	7.2	5.3	9.1	43.2	19.0	4.9	9.6	4.5
26年冬計	39.7	17.4	6.8	6.3	9.2	45.7	14.6	3.8	6.2	4.6
25年冬計	41.7	17.8	7.0	6.9	10.0	43.3	15.0	3.4	6.7	4.9
24年冬計	41.6	17.9	6.6	7.2	9.9	43.3	15.1	3.2	6.8	5.2

年代別にみると、「消費」割合は年代間で大きな差はみられなかったが、20代は昨年冬に比べ4.4ポイント低下(43.7% 39.3%)した。「貯蓄」割合は20代が50.1%と最も高く、年齢が高くなるにつれて割合が低下し、

50代は40.6%となった。「返済」割合は50代が17.7%で最も高く、住宅ローンの割合も50代が8.6%でトップとなった。

(以上、6図参照)

(6図) 年代別ボーナスの使途計画



(5) 貯蓄の目的

「貯蓄していれば安心だから」がトップ、「老後の備え」、「教育」と続く

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が43.6%で最も高く、以下「老後の備え」が31.2%、「教育」が28.4%などと続いた。

昨年冬との比較では4位までは同じ順位であったが、5位は「病気の備え」が1.9ポイント上昇の14.1%、6位は「耐久消費財」が2.1ポイント上昇の11.4%で、それぞれ1ランクアップした。一方、「住宅」は1.3ポイント低下の11.0%で2ランクダウンの7位となった。

男女別にみると、男性は「耐久消費財」(13.7%)の割合が女性に比べ4.4ポイント高かった。一方、女性は「旅行」(27.2%)が男性を15.0ポイント上回った。

独身・既婚別にみると、独身者はトップが「安心だから」(55.1%)で既婚者に比べ19.6ポイント高く、次いで「旅行」、「老後の備え」、「結婚」と続いた。一方、既婚者は「教育」(45.1%)がトップとなり、「安心だから」、「老後の備え」の順となった。

(以上、2表参照)

(2表) 貯蓄の目的

					(単位: %)		
	男性	女性	独身	既婚	26年冬計	25年冬計	24年冬計
住 宅	11.6	10.4	5.9	14.5	11.0	12.3	12.0
教 育	(3) 28.0	(3) 28.8	4.9	(1) 45.1	(3) 28.4	(3) 30.3	(2) 29.9
結 婚	8.5	8.2	(3) 18.8	1.0	8.4	8.5	8.3
旅 行	12.2	27.2	(2) 25.4	16.3	20.1	20.8	21.4
耐久消費財	13.7	9.3	10.1	12.3	11.4	9.3	10.5
病気の備え	13.7	14.6	12.2	15.5	14.1	12.2	10.5
老後の備え	(2) 31.0	(2) 31.3	(2) 25.4	(3) 35.2	(2) 31.2	(2) 32.1	(3) 27.5
安心だから	(1) 45.6	(1) 41.8	(1) 55.1	(2) 35.5	(1) 43.6	(1) 43.6	(1) 46.6

2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向きの厳しさが幾分広がりがつつある

まず、「昨年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、「良くなった」とする回答は26年夏に比べ0.6ポイント増加の5.8%、一方、「悪くなった」は6.1ポイント増加の25.6%、「変わらない」は6.7ポイント減少の68.6%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は40.1と、26年夏に比べ2.7ポイ

ント低下した。

暮らし向き指数は24年夏以降6期(半期毎)連続で40.0を超える水準で推移している。しかしながら、「悪くなった」とする割合はこのところ増加傾向にあり、指数は25年夏(45.1)から5.0ポイント低下している。全体としては暮らし向きの厳しさが幾分広がりがつつある状況がうかがわれる。

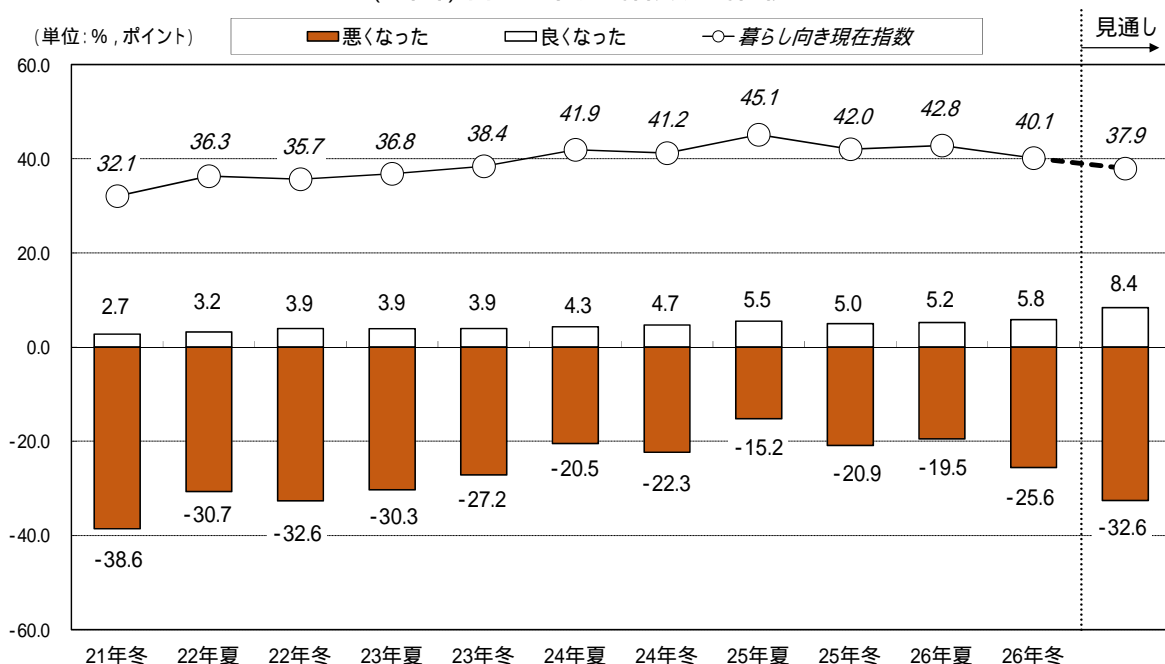
年代別、属性別に見ると、「良くなった」とする割合は20代で13.3%となったものの、年代が進むにつれて低い割合となり、50代では2.4%にとどまった。一方、「悪くなった」とする割合は、20代が18.1%で年代が進むにつれて高くなり、50代では32.4%となった。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考

えますか」との問いに対しては、「良くなる」の割合が2.6ポイント増加の8.4%となったものの、「悪くなる」は7.0ポイント増加の32.6%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を2.2ポイント下回る37.9となり、40.0を下回る見通しとなっている。

(以上、7図、3表参照)

(7図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	5.7	9.5	68.6	58.0	25.7	32.5	40.0	38.5
女性	6.0	7.4	68.5	60.0	25.5	32.6	40.2	37.4
独身	8.6	12.1	71.1	62.9	20.3	25.0	44.1	43.5
既婚	4.1	6.1	67.0	56.6	28.9	37.3	37.6	34.4
民間	6.0	8.6	67.2	59.4	26.8	32.1	39.6	38.3
公務員	5.5	7.9	72.0	58.3	22.4	33.9	41.5	37.0
20代	13.3	16.9	68.7	64.5	18.1	18.7	47.6	49.1
30代	5.5	7.7	72.5	64.7	22.0	27.6	41.8	40.1
40代	4.2	7.3	67.0	55.9	28.7	36.8	37.7	35.2
50代	2.4	3.9	65.2	51.2	32.4	44.9	35.0	29.5
全体	5.8	8.4	68.6	59.1	25.6	32.6	40.1	37.9

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0
 今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

3. 県内給与所得者の小遣いについて

毎月、ボーナス時とも 20 代男性がトップ

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約 3 万 3,900 円、ボーナス時は約 5 万 3,300 円となった。男女別にみると、男性は毎月の平均額が約 3 万 9,100 円、ボーナス時は約 5 万 7,500 円、女性は毎月が約 2 万 9,000 円、ボーナス時が約 4 万 9,400 円となった。

次に年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いをもっとも多いのは 20 代の約 4 万 900 円、逆に最も少ないのは 30 代の約

3 万 600 円、ボーナス時では最も多いのが 20 代の約 6 万 3,100 円、最も少ないのは 40 代の約 4 万 8,100 円となった。

男女別、年代別にみると、男性は毎月・ボーナス時とも全ての年代で女性を上回った。最も小遣いが多かったのは、毎月、ボーナス時とも 20 代男性であった。一方、最も少なかったのは毎月が 50 代女性、ボーナス時は 40 代女性であった。

(以上、4 表参照)

(4 表) 小遣いの額

(単位: 円)

	男性		女性		総計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20 代	45,750	76,075	37,052	52,266	40,861	63,051
30 代	34,336	52,714	27,597	52,421	30,635	52,552
40 代	40,466	51,446	27,139	44,538	33,831	48,055
50 代	38,893	55,786	26,325	48,017	33,285	52,266
年代計	39,131	57,477	28,990	49,404	33,934	53,343

4. この冬の御歳暮事情について

予定あり 30.4%、贈答先数 4.7 先、平均金額 4,452 円

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の 30.4%が「予定あり」としており、昨年冬(37.5%)に比べ 7.1 ポイント低下した。

属性別にみると、独身・既婚別では、独身者の「予定あり」が 13.3%にとどまったのに対し、既婚者は 41.1%となった。「予定あり」を年代別にみると、20 代では 6.6%にとどまったが、年代が進むにつれて割合が大幅に増加し、50 代では 61.2%となった。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と 1 先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均先数は 4.7 先、1 先当たりの平均金額は 4,452 円となり、御歳暮予算合計額は 2 万 15 円となった。昨年冬の調査と比べると、贈答先数(昨年冬 4.8 先)が 0.1 先減少した。平均金額(同 4,364 円)は 88 円増加したものの、予算額(同 2 万 65 円)は 50 円減少した。

属性別にみると、独身・既婚別では、先数、平均金額とも既婚者が独身者を上回った。また、年代別でみると、先数、予算額は50代、平均金額は30代が最も多かった。

一方、先数、予算額が最も少ないのは20代で平均金額は40代が最も少なかった。
(以上、5表、6表参照)

(5表) 御歳暮の予定

(単位: %)

	予定あり	予定なし
独身	13.3	86.7
既婚	41.1	58.9
20代	6.6	93.4
30代	18.4	81.6
40代	33.8	66.2
50代	61.2	38.8
全体	30.4	69.6

(6表) 御歳暮の先数と予算

(単位: 先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	3.5	4,333	14,756
既婚	4.9	4,476	21,062
20代	2.9	4,545	14,273
30代	4.0	4,660	18,200
40代	3.9	4,247	15,353
50代	5.6	4,500	24,416
全体	4.7	4,452	20,015

以上

調査要領

調査対象者	県内在住の男女給与所得者
調査時期	平成26年11月上旬
配布・回収枚数	配布枚数 1,000枚 回収枚数 909枚 (回収率 90.9%)

回答者内訳

(単位: 人)

属性	男性	女性	合計
20代	72	96	168
30代	119	154	273
40代	122	139	261
50代	110	97	207
独身	140	211	351
既婚	283	275	558
民間企業	279	375	654
公務員	144	111	255
合計	423	486	909

注: 20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所
担当 主任研究員 野里和廣
TEL 017-777-1511